

## 10 月の木材価格・需給動向

### 1. 国産材(北関東)

栃木は台風等悪天候により滞っていた丸太生産が再開、新山に着手する動き。悪天候による林道被害が多発しており、入荷量は平年を下回る状況。出材が7月から3ヶ月連続で平年を下回る中、製材工場の手持が極端に少なく、活発な引き合いが続いている。特にスギの入荷量が少なく中目材の引合いが強い。価格は入荷量が依然低水準のため製材需給はますます逼迫しており、全材種とも震災前の価格までほぼ回復している。スギ・ヒノキともに柱材は強保合、中目材は強含みで推移している。群馬は、スギ 3m4m ともに不足気味だが、工場の操業はほぼフル生産。製品は原木価格急騰で市場価格は上昇しているが、対顧客価格のアップは厳しい。県補助事業住宅の進捗状況は良好。台風の影響でスギの出材が遅れ急騰しているが、一部製材筋の原木不足と想定。国有林が10月に入り順調に出材しており、価格はそろそろ頭打ちと予測。

### 2. 米材

8月の米国新設住宅着工戸数は、前月比5%減の年率57.1万戸。米国丸太は中国の買いが再び一服状態となっているが、出材も少なく、価格は強含んでいる。カナダ丸太はセカンド、オールドともに強保合の状況。9月の産地港頭在庫は約5,000万スクリブナー(約23万m<sup>3</sup>)。また、ウェアハウザー社の10月積み米マツ IS ソートは先月に引き続き若干強含み。米材丸太の入・出荷、在庫とも横這い。大型港湾製材工場の9月の荷動きは好調だった模様。内陸部製材工場の荷動きは逆に一段と落ち込み徹底した当用買いとなっている。製材品の9月入荷は前月と同じ、但し、TLT(東京木材埠頭)は東北6県の振り替えで前月比12%増。出荷は低調でTLTは同9%減。在庫は7月をピークに8月、9月と減少、TLTは同7%減。産地情勢は米ツガ、米マツとも需給に変化はないが、丸太価格の高値推移と円高により製品価格は反発。米ツガKD小角を筆頭に産地価格は値上げの状況。建売関係とプレカットは比較的好調で、9月半ば現在8月に下落したSPF2×4の価格は全て回復。

### 3. 南洋材

サバの天候は良好。8月一杯断食と伐採規制のため出材は落ちている。合板用丸太の相場は国内工場からの引合い少なく弱い。ただ、慢性的に供給不足となっている製材用の良材、大径材及び堅木類は相変わらず強含みで推移している。製材品の相場は全ての品目で値上がり状態。サラワクは、天気はここに来て多少降雨はあるもののおおむね良好なため、出材は

比較的順調。合板用丸太の相場は、国内工場の在庫が潤沢なことから、特に下級材の値下がりが著しい。また、輸出用も約20%値下げ。一方、良材、大径材及び堅木類は供給不足のためそれほどは下らない。PNG・ソロモンは、天候不順で安値丸太を探している消費国からの引き合いが相変わらず多く、相場はやや強含み。丸太入荷はやや増加、出荷は横這い、丸太在庫はやや増加。製材品入荷は横這い。原木の販売は、合板用は低迷、製材用は変わらず。製材品の販売は、先月同様平割り、棒材とも入荷不足気味で荷動き良いが、現地価格が急騰しており、その分転嫁できなければ採算は厳しい状況。

#### 4. 北洋材

ロシア極東は日本向けが低調のままアムール配船も終了の時期になった。コムソムリスク地区の一般材は中国向け貨車渡しが好調で、日本向けのオファーは極めて少ない。RFP(旧ダリレス)の単板工場の建設は若干遅れているが、来期上期には稼働開始の見込みで、そうなると日本向け合板・製材用途のカラマツ1,2等材中目上は一層入荷困難と予測。シベリア地方はまもなく冬期伐採が始まるが、日本向けが低調な中で、満州里向け及び地元製材向けの引き合いは順調に入る見込。富山港・富山新港の9月丸太入荷は、2,950 m<sup>3</sup>(カラマツ1,732 m<sup>3</sup>、アカマツ1,218 m<sup>3</sup>、エゾマツ0)と先月比68%減。製品は5,799 m<sup>3</sup>で前月比35%減。出荷は低調、在庫は3ヶ月。丸太価格はアカマツは横這い、エゾマツは弱含み。製材品は引続き弱含み。国内製材工場は、アカマツ、エゾマツの原木、原板とも不採算。稼働状況は受注少なく採算合わず生産調整が続く。

#### 5. 合板

合板用南洋材丸太は産地価格が底打ちし小反発の状況。国産材、南洋材ともに各合板メーカーは、必要分のみの手当てが続き、原木在庫に問題はない状況。8月の国内合板生産量は19.1万m<sup>3</sup>(対前年同月比87%)で、うち針葉樹合板は17万m<sup>3</sup>(同比90%)で前月と同水準。出荷量は16.4万m<sup>3</sup>(同91%)で生産量を下回ったため、在庫量は8.8万m<sup>3</sup>と前月より微増となったが、依然として低水準の状況に変わりなし。販売価格は、針葉樹メーカーが低水準な在庫と堅調な需要を背景に、価格の安定化を継続する意向だが、市場では川上を中心に再販価格が伸びず収益の悪化に直結しているため、調整を求める声も多く折合いが付かない状況。国産南用材合板の荷動きは低迷が続くが、輸入合板の品薄品目を中心に引合は増え始めた。針葉樹合板は、市場の下落への懸念が強く、当用買いが顕著。輸入合板は商社筋の半期決算月と重なり、12mm厚品を中心に川上の販売姿勢が強く、軟調な状態。市場では様子見が大半で当用買いに変化はない。8月の輸入量は31.8万m<sup>3</sup>で、着実に減少しており、9月の入荷量は激減するとの見方多く、今後は徐々に需給は均衡される見通し。先行き輸入合板は一部の品目を除き川上の在庫に目処が付いてきたことや、産地動向の変化により、反転ムードが出始めている。今後は、タイトな品目を中心に、じり高傾向へと推移する見通し。

## 6. 構造用集成材

原料・ラミナは安定して入荷しており、国内在庫は依然やや多い。国産集成材の受注・販売・荷動きともに、引き続き良く在庫も微減。価格はユーロ安の影響でやや弱い状況。輸入集成材の動向は、グルーラムの価格は横這いだが、ユーロ安のため結果的には弱めで、国内在庫も多い。首都圏を中心に新築着工数は増加。プレカット工場は忙しい状況が続いたが、11月以降は動きが不透明との意見が多い。現場では着工増と東北地域へ仕事が集中していることから、職人が不足しており、一部の物件では着工に遅れが出ている情勢。

## 7. 市売問屋

国産構造材は、秋需期を迎え大手中堅ともプレカットの構造材需要が活発で、一般の在来用の荷動きもスギ柱・間柱を軸に小動き。造作材は、台風の影響で紀州方面の入荷が細く、限られた実需と微妙にバランスが取れている。外材では、スプルースがアラスカ産丸太の出材が少ないため、建具用良材が不足気味。需要期に入り市日入場者数は増えているが、買い方の対応は冷静で、特殊材を除き当用買いに徹している。首都圏のマンション着工が大幅に増えており、仮設材（バタ角等）の需要が増えてきている。

## 8. 小売

国産材の構造材価格は、スギKD柱、小割、ヒノキKD柱、土台とも保合。外材は、米ツガKD平割、正角KD、ロシアアカマツ弱保合。WW、RW集成材は梁、柱とも弱保合。合板は、針葉樹、ラワンともに弱保合。プレカット工場は、町場工務店の仕事が相変わらず少なく、価格的に厳しい状況。工務店はここに来て、新築が決まり多少の仕事は見えてきた。しかし、これも一部の工務店の動きで全般的にはまだまだ。

【参考資料】 [需給価格動向 PDF ファイル](#)